

新型コロナ日欧比較

- 1) 「交通崩壊の危機」があるのは日本だけ
- 2) 日本人は英独人よりコロナをより強く「恐れ」ている

一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議（所在地：京都市、代表理事：藤井聡京都大学教授、以下 JCOMM（読み：ジェイコム））が実施した6月7日のセミナーでは、世界各国との状況を比較した分析結果も発表されました。海外との比較から見てきたのは、新型コロナの需要減で交通事業者の事業継続が困難になる「交通崩壊」は日本だけの特殊な問題であり、日本人は、新型コロナを未知のものとして恐れる傾向が強いことを把握いたしました。

※交通崩壊：事業者アンケートで明らかとなった「5月の自粛状況が続けば、国内のおよそ半数の交通事業者が8月中旬頃までに事業継続が困難になる」という状況。
（参考：<https://www.jcomm.or.jp/covid19/#ques>）

コロナ禍の需要減少は日欧で大差なし。しかし日本でだけ「交通崩壊」の危機がある

- ウィーン工科大学交通研究所の柴山多佳児氏は、世界中の研究者と共同でオンライン調査を実施。3月後半～5月12日までで、102か国・地域から11,555件の回答。結果、コロナ禍における在宅勤務割合は、**欧米各国は40～60%で日本は41%と、需要の減少に大差はない。**
- ところが**日本では「交通崩壊」が問題となっている**が JCOMM がこれまでに行った海外事例ヒアリングによれば、**台湾やイタリア、ドイツでも「交通崩壊」のような危機とは無縁**（海外事例：<https://www.jcomm.or.jp/blog/>）。
- **日本でだけ「交通崩壊」が問題となっているのは、ヨーロッパの諸都市では、公共交通は民間で無く政府が提供する公共サービスだからである。**そのための長期的な運営スキームがあり、乗客の急減に対して堅牢であることを指摘。

イギリス・ドイツに比べ、新型コロナを未知なものとして恐れる日本人

- 筑波大学の谷口綾子教授が日英独3か国調査を実施（web調査/各国500人/5月実施）その結果によれば、**新型コロナに対して、日本は英独よりも「未知なもの」と認識し、ドイツよりも「恐ろしいもの」と認識している。**
- 具体的には、日本人は**新型コロナウイルスを、英独人と違って「エイズ」「テロリズム」により近いものとして認識している**ことが明らかとなった。

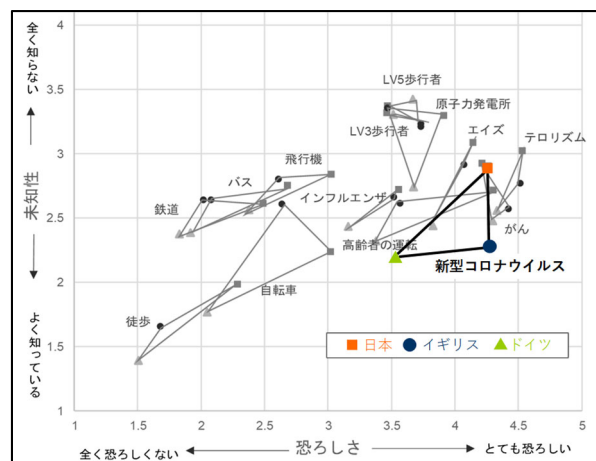


図 日英独のリスク認知マップ

■法人概要

人々の「交通」から生じる「渋滞」「環境」「健康」「まちづくり」などの様々な問題に対応するためには、自動車だけでなく公共交通や自転車などを「かしこく使う」ための取り組みであるモビリティ・マネジメント（Mobility Management, 略称MM）が必要です。

一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議は、適切な形のモビリティ・マネジメント（MM）が日本国内において効果的に広範に推進されていくことを支援することを目的として、日本モビリティ・マネジメント会議（以下、JCOMM）の持続的な開催・運営を主たる事業（過去に14回開催）として展開していくための法人です。

URL : <https://www.jcomm.or.jp/>

■問い合わせ先

日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）事務局

担当者名：神田・田中

Email : info@jcomm.or.jp

※折り返しの連絡、お電話での連絡が必要な方は、
上記メールアドレス宛にご所属、ご氏名、ご連絡先（電話番号）をお知らせ願います。

【特設サイト】

<https://www.jcomm.or.jp/covid19>

JCOMM コロナ

検索

